

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム なの花 南棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100394		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームなの花 南棟		
所在地	岩手県盛岡市仙北2丁目4-2		
自己評価作成日	平成 30 年 3 月 3 日	評価結果市町村受理日	2018年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390100394-00&PrEfCd=03&VerSj onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 3 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美味しい食事と健康な身体、楽しみのある生活は職員全員のもットーであり栄養バランスよく野菜と魚をふんだんに使った料理は利用者様方にも評判が良く食事を楽しみにされています。春から秋にかけ花や野菜を栽培し植えつけから収穫まで全員が楽しみにし花壇の水やりは利用者が行っている。仙北公園は毎日の散歩コースとなっており整備された花壇や樹木から季節の変化を感じ散歩は楽しみの一つになっている。筋力低下予防の歩行運動や音楽体操は日課となっており成果を感じられる。JR仙北町駅前に位置し交通が便利である。仙北活動センター、産直、商店街等ながらの人情が感じられ地域のお祭り見学や資源回収の協力など顔が見える交流をしながら地域に支えられ求められるグループホームをめざしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR仙北町駅や銀行、商店街に近く、公園、地区活動センター、産直に徒歩でも数分で行ける恵まれた環境に立地している。家屋は木造平屋建てで、共用のホールに設置された冷暖房機は冬は暖かく、夏は森林浴を想定され、加湿器も最新の機器を整備し感染症対策にも配慮するなど、四季を問わず快適な生活環境が提供されている。また、ドア付き浴槽や自動ホットタオル機等最新の介護機器を導入し、より快適なサービスの提供に努力している。共用のホールでは、職員が利用者の傍らで、利用者が利用者を支え合っている状況を、双方のプライドを損なうことなく見守り支援している。職員同士の協力関係も良好である。町内会活動に積極的に参加し、地元商店街を利用し、地域の高齢者福祉の拠点としての認識が高まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム なの花 南棟

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議で理念を分析、理解し方向性を定め管理者、職員間で共有し理念は見やすいところに掲示し実践につなげている。	会社が運営する全グループホームが同じ理念である。全体会議で、理念を一つ一つ掘り下げて検討し、理解を深め、具体的ケアと結び付け実践している。理念は、玄関やホールに掲示し、意識付けを図っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北2丁目の町内会に加入し自治会長、町内会連合会会長、民生委員にも運営推進会議委員になって頂き地域の情報を得て廃品回収、お祭り等町内会の行事に参加している。又推進会議では花壇作り、避難訓練に参加して頂き利用者方の状況をご理解いただいている。	町内会に加入し、廃品回収や花壇作り等、地区の活動に参加している。仙北地区防災訓練では、当事業所を避難場所として訓練を実施している。食材等商品の購入は地元商店を活用し、散歩では公園で子ども連れの母と触れ合うなど、地域と日常的に交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住人の方が施設見学をされ高齢者福祉施設の理解を頂いている。又活動センターで活動している方々の発表の場として提供している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を設け園の取り組みや現状を報告している。委員の情報提供により地区行事に参加している。又いつでも水素水が飲めるようコップを設置し利用者は自由に水素水を飲用している	会議は、地域の代表、家族(順番)が委員となっており、2ユニットをつなぐ共用のホールで開催し、利用者の生活が見えるように工夫されている。事業所の活動報告に対する意見や地区の行事の案内、委員同士の質問や情報交換等が行なわれ、活発な会議になっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度について不明な点は市役所高齢福祉課・生活福祉第一、二課へ電話で相談指導を受けている。生活福祉課と連携を取り担当者会議等を行い利用者の生活支援に努めている。	要介護更新認定申請や生活保護の諸手続き、運営推進会議議事録の提出等で、直接市に出向いている。また、市から電話やメールでも連絡を頂いている。生活福祉課では、不穏な言動の利用者の処遇について検討いただき、他施設の利用を決定する等、親身になった指導・助言を得ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が高齢者権利擁護推進員要請研修会を受講している。利用者の人権を安全に守る為身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在拘束が必要な利用者はいない。	管理者が権利擁護の研修受講に当たって職員対象に行ったスピーチロックに関するアンケートが、はからずも職員の意識付けの機会となったこともある。玄関は、過去に事故はなかったものの無断外出の事例があったことから、家族の意向と併せ、防犯や安全確保のため24時間施錠している。

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者権利擁護推進員要請研修会を受講している。高齢者虐待防止ポスターを掲示し入浴時の身体観察、言動も含め虐待が見過ごされないよう些細な変化も見逃さないよう職員相互の連携を取り注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は市役所介護高齢福祉課へ相談、指導を頂いている。特に生活保護の方については生活福祉第1・第2課へ相談、報告をし連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は入居前に重要事項説明を十分に行い疑問不安等を解決していただき契約を行っている。改定時は書面で提示、問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員はご家族2名に参加して頂いている。その他のご家族方には面会時等状況を報告しご意見を頂くよう議事録を開示している。又広くご意見、ご要望を聞き入れるよう玄関にご意見箱を設置している。	2名の利用者家族が運営推進会議に委員として参加し、事業所の運営や利用者の活動に意見を述べてくれている。他の家族には議事録を開示し理解して頂いている。また、事業所の広報「なの花便り」(年数回)を送付し、利用者の顔写真を家族に喜ばれている。面会時は、帰り際に意見や要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に疑問や意見は管理者が受けている。管理者は本社に報告相談し申し送り等で伝達し反映している。事務所に職員用のご意見・質問箱を設置している	職員の意見は申し送りノートに記載し、管理者で解決できない事柄は、会社に諮っている。利用者の側で深く関わりたいという職員の希望があり、調理・レクリエーション・入浴・手工芸作品作り等に得意な方や専門の方を試行的に非常勤で配置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員はそれぞれに得意分野を活かしやりがいや評価を得られる環境を作っている。資格修得へのバックアップは積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格修得研修はシフトを調整する等参加しやすい環境を整えている。必要な資格は力量を把握し個々に声かけをしている。一般の研修会の情報等は掲示して提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や盛岡市保健福祉部介護保険課、地域包括支援センター主催の勉強会に参加し勉強、交流を図りサービスの質向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で取り巻く環境や心の状態をお聞きし事前に見学していただき不安、疑問の解消に努めている。入居後は言動、行動、思いなどを職員間で共有しご家族とも連携を取り安心して頂けるよう統一したケアを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点でご家族の不安、疑問、要望をお聞きし利用者の支援が円滑にいくよう配慮している。個別援助計画、広報などで利用者の状況を報告し信頼関係が持てるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスは他職種とも連携を取り利用者の状況とサービス内容をご家族に説明し情報提供している。マッサージ、フードケアサービス福祉床屋等		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、居室掃除、クラフト作りを協力して行っている。調理の得意な方は職員に指導して下さる等共に生活する意識を大切にしている。又相性の良い利用者同士棟を問わず居室を行き来し円滑な人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅外食や家族との日帰り温泉旅行等で家族との絆を大切にしている。ケプラン、モニタリング、広報で園での生活を紹介し共に情報共有をしている。些細なことでも情報交換をし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆のお墓参りや年末年始の外出などご家族と共に出かけられている。親戚、知人、友人の面会は入居時ご家族から了解を得ている。電話を取り継いだり暑中見舞いや年賀状を出している。	家族や友人など、毎日面会の方が来ている。家族とは墓参りや温泉に出かけている。電話の取次ぎのほか、年賀状・暑中見舞い・クリスマスカードの作成等、馴染みの関係継続の支援をしている。訪問理容師とも馴染みになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を配慮し席替えや棟を移動し互いを尊重しあえるよう考慮している。レクリエーション等も職員が仲介し入居者相互の良い関係が出来るような雰囲気作りをしている。両棟を自由に行き来しコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫に付き添い妻が仮入居されたが間もなく夫が入院退去となった。妻は正式入居となり現在は長男の妻の母が共に入居している。入院退去となった利用者の退院後の相談を受け対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の基礎情報を大切にし何気ない会話行動から思いを汲み取り統一した支援を提供している。家族にケアプラン、モニタリングを定期的に郵送している。状況により来園時や電話で相談をしご家族の思いや意向を大切にしている。	入居時の基礎情報を踏まえ、本人や家族との日々のかかわりから、意向等把握し、職員で共有しケアに活かしている。また、言葉で表現できない方は、動作やしぐさ、表情で推察し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時利用者の基礎情報を大切にしている。日常の会話からも生活歴を汲み取り、ご家族からの情報も職員間で共有、周知し統一した支援を提供している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを大切にしている。不安になる要因や時間帯を職員間で共有しつつ穏やかな生活が保てるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴や日々の何気ない会話から本人の思いをくみ取り職員間で共有している。又家族の面会時にご意見、ご意向を伺いプランに反映できるよう努力している。プランはご家族の承認を得て実行している。	連絡ノート、業務日誌、個別生活日誌をもとに、担当職員の意見や家族の希望、医師等の意見を参考にしながら、本人の意向に沿った介護計画の作成に努力している。計画は、6か月ごとに見直し、必要に応じ追加、変更を行い、その都度、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別生活日誌で日々の生活の様子を記録し情報を共有ケース会議で検討。ケース計画の見直しをしている。日常的に申し送りノートを活用。朝の申し送りで伝達し情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も視野に置き現状を把握し事業所ができる事を柔軟に対応している。必要があれば市役所、地域包括支援センター、協力医にも相談し必要な情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仙北2丁目夏祭り、花火鑑賞、秋の芸術祭マーチングバンド見学、資源ごみ出しの協力。産直で買い物、美容院利用、おやつをお餅さんで購入、誕生日の花束購入等地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される場合は協力医に訪問診療を依頼している。主治医をご家族対応で受診している方もいる。主治医は変えないが通院が難しい方には園が対応している。風邪などの場合は協力医受診を園が対応する場合もある。	かかりつけ医の受診は家族が行っており、家族が都合の悪い場合は、職員が付き添っている。多くの利用者が、協力医をかかりつけとし、訪問診療を利用している。歯科については、かかりつけ医又は協力医の訪問歯科診療を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が在職しない為症状の変化等は協力医に電話で相談し指導を頂いている。主治医が協力医で無い場合はご家族に報告し了解を得て主治医に連絡相談し適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者、ご家族と連携を取り必要な物を届けたり必要であれば毎日訪問するなど協力体制を取り早期退院に向け支援をしている。退院後は協力医、主治医に報告し症状の変化に注意している。又サマリーを活用し疑問、不安などは病院へ報告し指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に指針が記載されており説明している。医師が終末期と判断された時本人の意思を最大限に尊重し対応可能な範囲を含め担当者会議を行い本人に一番良い方向を検討している。終末期における対応は早い段階で家族の意向を把握し方向性を定め連携を取り支援している。	重要事項説明書に重度化に向けた方針についての記載があり、入居時に説明している。医療連携体制が不十分なため、看取りは困難であるが、本人・家族が希望する医療機関や施設の紹介、看取り間際までの支援等、事業所ができる範囲の説明をし理解頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園のマニュアルを作成し職員間で共有している。搬送の仕方、けがの応急処置等自主訓練を行い危機管理意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	盛岡南消防署仙北出張所の立会で年2回夜間想定避難訓練を行っている。自然災害にそなえ本社からの応援部隊、避難場所、避難経路等マニュアルを作成し訓練を行っている。防災備品を備え自家発電を設置している。	市のハザードマップを廊下に掲示し、常に、避難場所や避難経路の確認をしている。盛岡南消防署の立会いで、仙北地区火災防衛訓練を事業所を避難場所として実施している。少年消防クラブ、仙北地区自主防災隊、推進会議委員、地区住民等300人の参加を得ている。加えて、夜間の避難訓練も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を大切に自尊心を傷つけないよう礼儀を守りつつ親しみが持てるような柔らかい言葉かけをしている。又得意な分野の話題を提供する等生活を楽しみ意欲が持てるような声かけを工夫をしている。	利用者への呼びかけは、同じ名字、同じ名前の方がおり、名字で呼んだり名前では呼んだり様々である。排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮し、個々に合わせた声掛けをしている。また、餃子作り等、一人一人の得意分野で活躍できる場面づくりをし、利用者の意欲や誇りを尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が難しい利用者には日常の行動や会話から汲み取り職員が端的な言葉で表現する事で自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしている。歩行運動、音楽体操時間以外は平屋の利点が生かされユニットを自由に行き来し馴染みの利用者同士塗り絵やカラオケ、それぞれの居室訪問を楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に福祉床屋や馴染みの美容院を利用しパーマやヘヤダイを楽しんでいる。爪切り、耳掃除は定期的に行い。希望により化粧品も購入している。季節に合った洋服も自ら選ばれ爪のおしゃれをしている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な方が伝授しシュウマイや餃子を利用者が作っている。季節の物、旬の物を提供するようにしており月に1回の鮎の日には楽しみにしている。個人の好みに合わせ代替えや味付けに工夫をし喜んで召し上がって頂いている。	献立は本社で作成し、栄養面を考え充実したものとなっている。月1回の寿司(出前)の日を楽しみにしている。自家菜園のかぼちゃ、スイカ、トマト等の旬の野菜を使用している。シュウマイや餃子作りの得意な利用者を先生に調理した際には、家族から母を立てて頂いたと喜ばれた。職員も同じ食卓で、会話しながら和やかに食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	軟らかくなる物は一口大に切り噛みきれるように調理。噛みきれない物は細かく食べやすいように工夫を凝らしている。食事は毎食後チェックし旬の食材で栄養バランスのとれたメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きとうがい薬とうがいを支援している。義歯は夜間、義歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。義歯洗浄カップ、歯磨きコップ、歯ブラシも洗浄消毒している。歯科協力医による定期的な歯科健診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう個々の排泄パターンを活かし定期的にトイレ使用の声かけや誘導をしている。排泄チェック表を付けており定期的な声かけで失禁を回避し自信をもって頂いている。ウォシュレットやホットタオル陰部清拭で清潔保持に努めている。	毎日排泄チェック表で、排泄状況を確認し、水分補給や便秘への対応をしている。個々の排泄パターンにあわせトイレに誘導し、温水洗浄便座やホットタオルで陰部清拭し清潔の保持に努めている。排泄介助時にトイレと一緒に入るのを嫌がる方もおり、おじゃましますとかお供させてくださいと、声をかけ介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物を多く提供している。歩行運動や音楽体操で便秘の予防に繋げている。排便チェック表を付けており便秘症の方は医師の処方により漢方薬・整腸剤を服用している方もいる。毎日の水素水、カフェオレの水分補給も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前の準備は職員と一緒にいき入浴は職員とのコミュニケーションの場にもなっておりゆったりと過ごして頂いている。	着替え等、入浴前の準備を職員と一緒にしている。週3、4回入浴でき、希望で毎日入られる方もいる。足上げが困難な方は、ドア付き浴槽を利用している。入浴介助時は、利用者と会話が進み、歌を唄うなど、楽しみな時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は安心して休んで頂けるような声かけをしている。テレビ視聴しながら入眠され消し忘れの場合は職員が消す等その方に合わせ安眠できるよう支援している。足元の冷たい方には小さな湯たんぽを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病状を把握しお薬説明書は申し送りに提示し全員が把握できるようにしている。処方薬は鍵のついたキャビネットに保管し管理者が配薬夜勤者と順番が確認し間違いがないようにしている。服薬介助時は本人に名前を見て頂き名前を音読み職員が複数で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等できるところはお手伝いをして頂いている。得意な方から伝授されシューマイや餃子は利用者担当となっている。ピザ作り、手作りパン、花饅頭作り、音楽会や紙芝居鑑賞等、つるし雛作りを楽しまれている。塗り絵は入居当初より確実に上達している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの美容院への送迎支援。近隣の産直や御餅屋さんへの買い物。気候の良い季節は毎日仙北公園へ散歩が日課になっている。ご家族が通院や食事にお連れする方もいる職員の果樹園へりんご狩りは恒例となっている。衆議院選挙投票の送迎の経緯もある。	気候の良い時季は、仙北公園への散歩を日課とし、また、近くの産直へ出かけて買い物もしている。家族と外食や温泉へ行く方もいる。毎年恒例となっている、職員の果樹園でりんご狩りを楽しみにしている。選挙に際しては、投票の送迎を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は預からないが本人、家族の希望で所持金を持っている方もいる。時々スーパー、産直に買い物支援をし現金で支払う達成感も得ている。大方の利用者は園で立て替え払いで買い物を楽しんでいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を書いて家族に送っている。電話は希望があれば都度対応している。携帯電話でやり取りしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く天窓から太陽が射しこみ白い壁が一層広い空間を生み出している。数か所に飾られた岩手山のパネルは広大な自然を感じさせている。ホールにはピアノが配置され自由に弾く事が出来る。全館パネルヒーターを設置し廊下とホールに設置したエアコンで冬は暖かく、夏は涼しく温度調整をしている。	ホールの梁から多くの吊るし雛が吊り下げられ、季節が感じられる。各棟の広いリビングの四角い食卓は、自由に組み合わせが可能である。自由時間には、ホールで利用者が利用者に教わりながら、作品を作っていた。天井が高く、各棟に数枚の岩手山の大きなパネルが飾られている。全館パネルヒーターでの暖房で、夏期は森林浴を感じさせる涼しい風が送られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを自由に行き来し居室訪問を楽しんでいる。キッチンでリンゴの皮むきややしのひげとりをしたり東棟の円卓で馴染みの利用者同士塗り絵やカラオケを楽しんでいる。居室でパッチワークをしたりテレビ視聴の方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとチェスト、ギャチアップベッドが備えつけているが使い慣れた家具やテレビ等を設置している方や仏壇やお位牌をまつている方もいる。壁に家族と一緒に写真や本人の塗り絵の自信作、クラフトを飾り満足して頂いている。ご家族からのカードやプレゼント、お花など飾り安心して頂けるよう工夫している。	居室には、両親の遺影、位牌、家族の写真、塗り絵、クラフト作品が飾られている。クローゼット、チェスト、椅子、ギャチアップベッドが設備され、褥創予防のマットレスを使用している。各居室のドアには、手作りの内裏雑が飾られてある。ソーラーパネルで室温が適正に保たれている。掃除が行き届き、清潔に管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは絵で表示をしている。洗面所はドアが無くセンサーで電気がつくため分かりやすく個人の洗面台は名前を明記している。居室ドアには本人と家族の写真やクラフトを張っており目印になり不安なく過ごせるよう工夫している。		